

二〇二五年度 入学試験問題

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

二 限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。
- 四 問題冊子のページを切り離さないこと。

マークシート解答方法についての注意

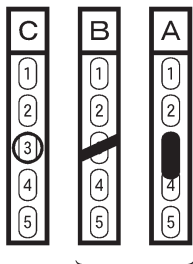
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



○でかこまないこと。

二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔一〕 つぎのAとDの文章は同じ論文における百貨店に関する部分からの引用である。これらを読んで、後の問いに答えよ。

A 近代的エス^{*}テイクスを作り出し、体现していたものの一つが百貨店である。三越や高島屋、大丸など、今日の大手百貨店の多くは、江戸時代に呉服店として創業したのだが、一九〇〇年代から一九一〇年代にかけて経営方針を大幅に変更し、呉服のみならず輸入品も含めた多種多様の商品を取り扱うようになった。そして、関東大震災後の一九二〇年代から三〇年代に相次いで改築されたルネッサンス様式の洋風建築の店舗や、そこで働く人々、特に売り子などの女性は、華やかなイメージとともに消費主義社会の到来を象徴する存在となったのである。

一九二〇年代以降、多くの百貨店は、それまで対象としてきた高級官僚や財界人など上流階級層だけでなく、中産階級へもその顧客層を拡大し始めた。同時に、百貨店の施設やその役割も大きく変化していった。百貨店は、ただ単にモノを買うためだけの場所ではなく、そこを訪れるという行為、言い換えれば百貨店という空間を消費することが重要となったのである。店に一歩足を踏み入れると、国内外から集められた洋服や化粧品、家具から絵画にいたるまで、あらゆる商品の一つ屋根の下に収めた世界が広がっていた。さらには、荘厳な西洋建築の外観に加え、当時まだ珍しかったエレベーターやエスカレーター、空調設備、喫茶スペースや食堂を備えていたことも百貨店の魅力の一つだった。これらは、長谷川一が「テクノロジーの遊戯」と呼んだ、技術と身体との「接合・同期・協調」を通して生まれる既存の認識・知覚の揺らぎやずれ、逸脱を呼び起こす「アトラクション」として機能していたともいえるだろう。長谷川が論じるように、こうした日常の実践の中の「ずれ」は、時に違和感を伴うが、それ故に「愉しさ」を人々に感じさせる。つまり、買ひ物が娯楽化していく中で、新しい技術がもたらす感覚的な「ずれ」が、不愉快や不気味さではなく、「楽しい」という感情として認識されるようになったのだ。これにより、百貨店という消費空間は、近代化を体现した商品や最新鋭の設備などを通して、エンターテインメント的な機能をも果たすようになったのである。

B 百貨店食堂が人気を集めた理由の一つに、日本食の他、当時はまだ珍しかった洋食を比較的安価に提供したことが挙げられる。カレーライス、とんかつ、コロッケは「大正の三大洋食」と呼ばれ、当時の百貨店食堂のメニューにはほぼ必ず掲載されていた。東京や大阪など都市に住む中産階級層の消費者は、モダンな内装が施された食堂でハイカラな食事を手軽に堪能するという、新しいライフスタイルを享受するようになったのだ。

百貨店は、家族で行楽のために訪れる場所でもあった。当時の新聞記事をみると、百貨店の食堂は、「いつも大入満員の盛況だが、そのお客の過半数は婦人と子供である」と書かれており、その混雑具合、そして女性や子連れ客が目立っていたことがわかる。（中略）

百貨店食堂が、特に女性客から大きな人気を得たもう一つの理由が、当時は中産家庭が利用できる手頃な食事場所が少なかったことが挙げられる。当時の東京や大阪などの都市では、街中にあるのは、エリート層を相手にした高価なレストランか、労働者向けの安い食堂がほとんどだった。さらに、女性だけで外食をする習慣が一般的ではなかった。そのような中、中産階級の家庭、特に女性が比較的気軽に食事を楽しめる場所を百貨店食堂が提供したことは、都市における外食習慣を大きく変える出来事だったのだ。

百貨店食堂の様子を『大阪朝日新聞』は一九三五年八月二七日の記事で以下のように伝えている。

「デパートの食堂が婦人連にもつ魅力はいよいよ上昇して、歳末となるとその頂点に達する、よくも買い込んだりと思われる品物を椅子からテーブルの上にまではみ出して、パクつくあの満ち足りた表情はどの画家にも描けそうにもない、この²気分を壊さぬように巧みにコントロールするのが、百貨店食堂ガール達に課された仕事だ」

買い物を楽しんだ後に、意気^aヨウヨウと食堂にやってきて食事をする女性客の姿が目につく。この頃には、年末になるとバーゲンセールを行う百貨店も珍しくなく、そうしたセール品目当てや新年のための買い出しをする客で賑わ^{にぎ}っていた。百貨店は、普段の食料品や日用品など必要物資を購入するだけでなく、買い物を楽しむための場所、つまり消費がレジャーへと変化した空間でもあった。そしてこの消費を楽しむという行為やそこから生まれるエステイクスこそが、まさ

に消費主義社会を特徴とする近代化の産物だったのだ。陳列棚に多種多様の商品が並び、舶来の化粧品の匂いが漂う店内や、「ハイカラ」な洋食の味や香りを堪能できる食堂。商品を横目に店内を歩く買い物客のざわめき、さらに洋服を手にとった時の合成繊維の肌触りなど、百貨店は新しい感覚体験³で溢^{あふ}れていた。そうした感覚は、楽しさや西洋的なモノへの憧れなど様々な感情とともに、百貨店という空間を消費する体験を作り出していた。

C 買い物客の「気分を壊さぬ」よう、レジャーとしての買い物を楽しむための空間を作り出していた重要なファクターの一つが、先述の記事にも出てきた「食堂ガール」である。食堂ガールとは、百貨店食堂で給仕として働いていた女性のことで、その大半は、尋常小学校または高等小学校を卒業したばかりの一三歳から一八歳の少女だった。多くの百貨店では、就職すると女性は最初に食堂に配属されることが多く、キン^bム経験の浅い食堂ガールたちが担ったのは、フロアを歩き回って客の注文を聞き、料理をテーブルに運び、時には客の苦情を聞くといった、身体的にも精神的にも厳しい仕事であった。百貨店の採用には、そのような重労働をこなすための体力と健康のほか、家柄、学歴、容姿、性格などいくつかの基準があり、中でも容姿端麗であることは最重要要件の一つだったという。

(中略)

百貨店は、食堂ガールのように、そこで働く女性たちが近代化の象徴となるようイメージを作り上げていった。つまり彼女たちの仕事は、ただ単に客の注文を聞き食事を運ぶだけでなく、百貨店のイメージを客に提示するものでなければならなかったのだ。そのイメージ作りに一役買っていたのが、彼女たちが身につけていたユニフォームと接客態度、特に笑顔である。一部の店舗を除いて多くの百貨店では、食堂ガールは洋装(多くはワンピース)に白いエプロンをつけていることが多かった。一九三〇年代にはすでに女性のファッションの洋装化が進み始めてはいたものの、女性はまだ和服を着ることも多く、洋装は西洋的なもの、それを通した近代化を象徴する記号でもあった。さらに、店員マニキュアルや当時の新聞記事によると、食堂ガールは、いつも明るく、愛想よく振る舞うことが求められ、何⁴よりも笑顔でいることが重要だった。

それまで日本では、一般的に女性が人前で満面の笑みを見せることははしたないとされ、感情を表に出さない奥ゆかしさが理想とされた。日本と西洋の女性の違いについて述べた、一九一一年の『婦人画報』の記事は、日本人が控えめであることを美德とする一方、後者は開放的で愛想の良いたことが魅力的だと考えられていると紹介し、口を閉じ微笑を湛えた日本人女性と、大きく口を開けて笑顔を見せるアメリカ人女性の写真を掲載した。また、一九〇〇年代頃まで、特に上流階級では「お歯黒」の習慣があった。お歯黒を施していた理由は諸説あるが、その一つに、口腔衛生に対する考え方が広まっていなかったため、歯を黒くすることで、汚れや歯並びの悪さを目立たなくしたというものがある。これは一九三〇年代とは異なる、近代化が進む以前の美意識に基づいたものであり、女性が白い歯を見せて笑うことは、少なくとも上流階級においては、美德として認識されておらず、また物理的にも難しかったといえる。

もちろん、すでに江戸時代には「看板娘」と呼ばれるような女性店員が集客に一役買うことも珍しくなく、客に愛想よく振る舞うこと自体は全く新しいものではなかったかもしれない。だが、「白い歯を見せた笑顔」という、記号化された女性の身体が近代化や西洋なるものをシサすようになったこと、そしてそうした女性像が許容され、さらには理想的な女性の姿として社会で共有されるようになったことは、当時の歴史的文脈の中で生まれた新たなエステイクスのあり方を示している。

D 「大和撫子らしい感じ」であることを好意的に評したり、純真で無垢な存在として食堂ガールを描いているこれらの記事は、暗にその比較対象として(男性へのサービスを提供する)カフェーの女給などを想定しているように思われる。カフェーの女給(またシヨップ・ガール)も、北澤や吉見が論じるように、近代的な都市生活の象徴としてメディアで取り上げられるようになったのだが、その近代性は食堂ガールとは異なるものであった。前者は、いわゆる「モダン・ガール」のイメージのように、自由恋愛を謳歌し、時に性的魅力を全面に押し出す存在として認識されていた。食堂ガールは、概してその多くが一〇代の少女だったということもあるが、ある意味で家父長的ジェンダー観に根ざした、純粹で従順な女性像だったといえるか

もしれない。さらに、従来(そして今でも)家庭で食事を準備し提供することは女性の仕事だと考えられることが多く、それが百貨店の食堂であつても、食事を提供するという行為そのものは、家庭内の理想的性別役割分担の延長線上にあつたといえるだろう。

一方で、食堂が百貨店の中に組み込まれていたという点で、百貨店食堂および食堂ガールは消費や近代性と結びつけられた存在でもあり、先述したように彼女たちの姿・接客には、日本社会が目指した近代化の片鱗^{へんりん}も窺^{うかが}える。つまり食堂ガールは、近代化過渡期の日本社会において、伝統的 X ・ Y と近代的なそれとが混じり合う微妙な世界観を體現した存在だったのではないだろうか。そこには、「近代化」の名の下に、劇的な政治的・経済的・社会的変化が進む日本社会に生きる人々の、期待と不安が入り混じった複雑な感情が透けているようにも思えるのだ。

食堂ガールは、西洋風建築や店内に陳列された商品と並んで、レジヤーとしての消費体験を客に提供し、近代的文化装置としての百貨店のスペクタクルを構成する重要な存在であつた。彼女たちの笑顔や一連の仕事は、アーリー・ホックシールドが論じたような「感情労働」、もしくはアントニオ・ネグリとマイケル・ハートが二〇世紀末以降の主要な労働形態として提示した「非物質的労働」の萌芽^{ほうが}、ないしはその早期の事例として位置付けることができるかもしれない。ホックシールドによれば、感情労働とは、「公的に観察可能な表情と身体的表現を作るために行う感情の管理」を指す。また、ネグリとハートにとつて「非物質的労働」とは、労働者による感情の操作・管理のみならず、生産物が非物質的であることが重要である。つまり、感情が非物質的な「商品」となり、消費者はその感情＝商品を消費するのだ。

(久野愛「消費主義史とエステティクス」より。文章を一部省略した)

【注】

* エステティクス

この論文においては、「感覚的・感情的認識」という意味。感覚と感情を別々のものとしてとらえるのではなく、その両者が複雑に絡み合った一連の行為(例えば、リンゴを食べた時、「甘い」「酸っぱい」という感覚とともに、それによって「うれしい」「懐かしい」等という感情が喚起されること)を、一つの体験として認識するという考え方。

* これらの記事

この論文では、本文Dの前に、一九三三年刊行『大東京うまいもの食べある記』、一九三一年刊行『サンデー毎日』の記事が掲載されている。

* 北澤や吉見が…

この論文には、本文Dの前に、シヨップガールに関する北澤秀一と吉見俊哉の論考について述べた箇所がある。

問一 二重傍線部 a「ヨウ」b「キン」c「サ」の漢字表記について、傍線部に同じ漢字があてはまるものをつぎの中からそれぞれ一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

a ヨウヨウ ア 砂糖をトカす

イ 応ヨウが利く

ウ 凡ヨウな人物

エ 国旗をアげる

オ 太平ヨウを望む

b キンム

ア 胸キンを開く

イ 問題解決にツトめる

ウ キン労に励む

エ ツツシんでおわびする

オ キン線に触れる

c シサ

ア 大統領補サ

イ ソソノカす

ウ 範囲をセバめる

エ サ業手順

オ 証サを得る

問二 傍線部1「役割」とあるが、一九二〇年代以降の百貨店の役割に関する説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 設備投資のあり方や、流通システムに変革をもたらす存在。

イ 海外の文化を魅力的に提案し、日本の古い価値観を一掃する装置。

ウ 日常生活では味わえない、新しい体験を享受できる娯楽的空間。

エ 日本国内のあらゆる商品が手に入る、庶民の消費活動におけるランドマーク。

オ 必要な物が購入できるだけでなく、食事も可能な、利便性の高い商業的文化財。

問三 傍線部2「この気分」とあるが、筆者はこれをどのように解釈していると考えられるか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 既存の認識・知覚の揺らぎに対する動揺

イ 関東大震災後の消費主義社会の到来への憧憬

ウ 中産階級層女性の新しいライフスタイルへの評価

エ 消費を楽しむという行為やそれによって得られる感覚と感情

オ 百貨店の食堂のモダンな内装と食事をする客で賑わう盛況ぶり

問四 傍線部3「新しい感覚体験」とあるが、こうした体験が当時の人々に受け入れられた経緯に関する説明は、本文A～Dのいずれに示されているか。その記号をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア A イ B ウ C エ D

問五 傍線部4「何よりも笑顔でいることが重要」とあるが、重要であった理由について、適切なものをつぎの中から二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 当時の客層に対し、食堂ガールの開放的で愛想のよい笑顔は百貨店のイメージ作りに有用であったため。

イ 食堂ガールは容姿端麗であることが求められるとともに、上流階級層への礼儀を笑顔で示す必要があるため。

ウ 少女たちにとって、食堂ガールの職務は過酷であったが、笑顔で接客することで、それを隠すことができるため。

エ 白い歯を見せた笑顔という新しい美意識を提示することにより、食堂ガールを近代的西洋的女性に仕立てるため。

オ 洋装に加え、明るい笑顔によって、食堂ガールの「モダン・ガール」というイメージを定着させようとしていたため。

カ 満面の笑顔ははしたないとされていたが、あえてそれを見せることで、食堂ガールの純粋な少女性が強調できるため。

問六 空欄

X

Y

クセよ。

ア X 家庭環境

Y 商業環境

イ X 美意識

Y ルッキズム

ウ X 習慣

Y 良識

エ X 経済活動

Y 社会活動

オ X 価値観

Y ジェンダー観

問七

傍線部5「非物質的労働」とは、労働者による感情の操作・管理のみならず、生産物が非物質的である」とあるが、食堂

ガールの仕事が「非物質的労働」といえるのはなぜか。その理由を、つぎの形式にしたがって、三十字以上、四十字以内で
まとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

食堂ガールは

から。

(下書き用)

食堂ガールは

40

から。

30

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

それにしても、しばしば「言行一致」が善いとされる。だから、口にしたことを実行しなかったとき、ひとはその結果の善悪とは無関係に、そのことだけをもつて悪いという。口にされたときには「それが実行された結果が善い」と想定されているが、もしそれが実行されなかったならば、口にしないままで実行もされなかったときよりもっと悪いとされるのである。「不言実行」とはそうした評価を避けるための知恵であろうし、逆に、あえてこれから行うことを宣言することで、実行しなければ悪いとされる程度が高まることを心理的圧力としてみずからの行動の動機づけにするひともいるくらいである。

¹ それに対し、嘘^{うそ}という言葉は、言説と行動のずれの最大の場合として、相手を騙^{だま}すために使われる。たとえば、「返すつもりがない借金をする」といった事例のように、まったく実行する意図のないことを口にして相手の金品を奪う詐欺師の、あるいは「事実と反する情報を与える」といった事例のように、相手を窮^{おとし}地に陥れる陰謀家の言説である。

こうした詐欺や陰謀は、言説を発した瞬間にそれが嘘であると本人が自覚しているわけであるが、それに対し、「借金をしたが返せなくなった」という事例のように、実行する意図はあったが、やむを得ない状況によってそれが実現しなかったということもある。その「やむを得ない」とされる事情をどこまで認めるかに応じて、詐欺や陰謀から、不可^Aコウ^ウリ^リヨク^クな事故や病気のような場合まで、それが悪とみなされる程度の差異が生じる。

嘘ではなかったが実行されなかったという場合でも、たとえば病気になったという事情の方が、ギャンブルをしたという事情よりもまだ善いとされる。ギャンブルでお金を増やそうとしたのは、やむを得ない事情とはいいい難いからである。とはいえ、それがギャンブル依存症という病気によるものとみなされる場合は、そうでない場合よりもまだ善いとされるかもしれない。

とはいえ、病気になったというのが嘘²かもしれない。嘘²だっただのかそうでないかは、受け取る方からすると相対的であり、それでひとは容易に騙される。ひとは言説どおりに実行されなかったときには嘘²だったと感ずるものだが、明確に嘘と呼べるのは、言説を発した瞬間に本人がそれが嘘であると意識しており、その言説のとおりには実行しないという意図をもっている場合であるから、裁判ともなれば、そのことがセイ^Bチ^チに立証されなければ

ならないのである。

嘘か否かについて重要なのは、実行しようとする意図があつたかどうかではなく、現実認識³がどうであつたかということである。

なぜなら、「意図」と呼ばれるものは、想定したことが現実的に可能であると前提し、それに加えて自分がそれを実行するであろうということを含む内語ないし言説である。この言説の聞き手は、話者の捉える現実性が自分の捉える現実性とはほぼ合致しているということを前提して話者の言説を受け取っている。話者が自分とおなじ社会的現実生きており、口にしたことを実行できるような環境にあるということを引き受けると同時に、話者が口にしたことを実行しようとする信用できる人物であるということを引き受ける。それゆえ、嘘という言説の悪の度合いは、言説と行動のずれというよりは、言説と現実性のずれの度合いによって測定される。

たとえば、小学生の子が、親に「大きくなったらポルシェを買ってあげる」といったからといって、親を騙そうとしているわけではない。親はその子がお金に関する現実性をよく知らないと前提してその言葉を聞くであろうし、遠い将来のことであるからその子が行う実行するかどうかは気にせずにその意味を受け取るであろう。その言説に話者と聞き手の現実性のずれはない。その言葉の与える現実性は、その子が親に対してもつ親密さや感謝の感情にはかならない。

他方で、たとえば自分の作品が高額で売れると信じている芸術家がいて、その売り上げで返すとして借金を申し出る場合、聞き手は実際にはそれが売れそうにないという現実性によってお金を貸さないかもしれない。あるいは、聞き手がお金を貸して実際に作品が高額で売れたとしても、その芸術家はその創作意欲によってお金を次の作品に注ぎ込み、借金を返済しないかもしれない。この芸術家を嘘つきと呼ぶとしたら、しかし大多数のひとは大なり小なり嘘つきである。自分のすべての言説を常にそのままに実行できるひとはあまりいない。

カントは、「借金を返さない」ことを道徳法則とすることはできないと述べたが（『道徳形而上学の基礎づけ』、その理由は、もしそれが道徳法則ならだれもお金を貸さなくなり、借金するという行動が存在しなくなるからだという。しかしながら、詐

欺師ならば「借金を返さない」のではなく、借金と見せかけて、詐取するだけである。ひとは「借金を返さない」という意志をもってお金を借りることはなく、諸事情によって、ただ借金が返せなくなってしまうだけなのである。もしこの芸術家が繰り返し借金を返さないときには、聞き手も、かれの言説は実行される可能性が低いという現実性を持つようになる、つまり信用しなくなるということである。

嘘を規定しているのは、一般に考えられているように、言説によって幻影や妄想を抱かせることではなく、言説が前提されている現実性の、人によるずれの大きさなのである。テオは決してヴァインセント・ゴッホを嘘つきだと思っ*****てはいなかっただろう。芸術家が優れた作品を創造したという妄想を抱いているのか、サイケン**C**ン**者**が芸術を見る眼をもっていないのかは相対的である。もしこの芸術家が詐欺師であつて、聞き手を騙そうとしているならば、その行動自体が悪なのであつて、嘘はその手段にはかならない。

騙す、すなわち明白な意図をもって嘘をつくとは、自分が持っている現実性を相手にあえて隠すことである。そこには、口にされたことが実現されないという嘘と、自身がそれを実現するための行動を実行しないという嘘がある。借金に関していえば、それが返済されないということと、返済する行動を実行するつもりがないという**4**二重の嘘がある。

学問においても、真理(新発見や新法則)を発表すると宣言しておいて実行しなければ悪い評価を受ける。だが、論文を書いてその宣言が嘘ではなかったと示したとしても、――⁵「医者の不養生」はよくあるが――、本人がそれをふまえて生活しない場合はどうであろう。たとえば、まもなく大地震が起これと発表していながら、自宅では何の準備もしていない地震学者がいれば、自分は真理であると考えていないとみなされるかもしれない。地震予知には大きな予算がつくからそうした発表をするという背景もある。

倫理学者についてはなおさらである。もし真の善を主張しながらその善を実行しようとしなければ、その主張が真理ではないか、自分は真理であると考えていないとみなされるかもしれない。間違っているのか嘘をついているのか、倫理学者にとつて、倫理的理論がみずからの倫理的主張と合致しないことが多いが、これが倫理学の第二の根本問題である。

真理ではないと考えていることを真理であると述べるひとは「嘘つき」と呼ばれるであろう。善の思想の研究であっても、その思想を選んで研究するのは、回り道をしているだけであって、やはりその善を真の善とみなしているからではないか。真の善であるとしたら、やはりそれは社会で実現されるべきものではないのか。真の善という概念には、そうしたことが含意されているのではないか。それを行わないのであれば、それを真の善とはみなしていないのではないか。したがって、そのようなことをする倫理学者は嘘つきなのではないか。

それでもなお、一般に、言説が実行されないというだけでは騙したことにはならない。「一度食事に行きましょう」といったタイプの社交辞令は実行されることが多いが、詐欺ではない。しばしば社交辞令が交わされるのが社会的現実であり、その言説は親密でありたいとの感情を表現しているという点では話者たちの共通の現実性のもとにあるのだからである。とすれば、倫理思想を論じるだけの倫理的理論は、一種の社交辞令のようなものであると弁明することができるかもしれない。

付け加えておきたいが、言説それ自体にも純粹倫理がある。「嘘についてはならない」ということもそこに含まれる。嘘についてはならないという以上、言説は嘘であり得るわけだ。とはいえ、嘘というものは、暴露されてしか嘘とは分からない。態度や状況証拠から問い詰められて、たまさかひとは「本当のこと」をいう。それにしても、それが真実であるかどうかは、永遠に分からない。というのも、事実⁶に反していても本人が「本当のこと」だと思ひ込んでいることもあるし、逆に、聞いたひとが事実と照合して「本当のこと」だと知っていると、本人は嘘をついているつもりかもしれない。なぜそうしたことが起こるのかというと、言説には「本当のこと」をいう機能がないからである。⁷つまり、ひとの心にテレパシーは不可能であるし、出来事は究極的に藪^{やぶ}のなかである。互いの心を照合することはできず、起こったことの意味は大なり小なり両義的である。過去についてはだれもが思い違いをし得る。未来については何が起こるか完全には分からない。現在の思考についてだけ、思考したことをそのまま相手に伝えようとすることはできるが、それを表現する言説が真実を示しているかは、だれにも分らない。とすれば、「本当のこと」の本当の意味は何なのか。

【注】 *道徳法則

人間ならば誰もが守るべきだと定められている普遍的な義務のようなもの。哲学者カントの用語。

*テオ

テオドルス・ヴァン・ゴッホ（一八五七～一八九二）。有名な画家であるヴァン・ゴッホの弟。兄のよき理解者であり、生活費を援助するなどして兄を支えた。

問一 波線部A「コウ」B「チ」C「ケン」の漢字表記について、傍線部に同じ漢字があてはまるものをつぎの中からそれぞれ一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

A コウリヨク ア 反対派の根強いテイコウ

イ 細部にコウデイする

ウ 思考がコウチヨクする

エ 税金のコウジヨ

B セイチ

ア キチに富んだ会話

イ 独特なヒツチの作家

ウ チヒツで有名な作家

エ コウチな文章

C サイケン

ア 純文学のフツケン

イ ショウケン会社

ウ 徒手クウケン

エ 功労者をケンショウする

問二 傍線部1「それ」が指すものとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 自らが口にしたことを、その通りに実行すること。

イ 何も口にしないが、計画したことは黙々と実行すること。

ウ 自らの計画を口にすることなく、かつ実行もしないこと。

エ 自ら口にしたものの、結果的にはそれが実行されないこと。

オ 自らを奮い立たせるために、前もって計画を口にすること。

問三 傍線部2「受け取る方からすると相対的であり」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 嘘の判断は、話し手側の事情だけでなく、受け取る側の事情も考慮すべきであるということ。

イ 話し手の言説と行動が一致しなかったとしても、事情によっては一概に嘘とは言い難くなる場合もあるということ。

ウ 話し手に約束を履行する意志が無かったことは裁判で立証すべきであり、受け取る側が一方的に断定できないということ。

エ 話し手側の言説と、それを受け取る側の解釈が食い違った場合、受け取る側が一方的にその善悪を決定できるものではないということ。

オ 話し手と受け取る側の現実認識が一致して初めて嘘が確定するため、受け取る側の認識だけでは不十分だということ。

問七 傍線部6「たまさか」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア なりゆきで イ 頻繁に ウ まれに

エ 苦し紛れに オ 意に反して

問八 傍線部7「言説には「本当のこと」という機能がない」とはどういうことか。つぎの形式にしたがって、二十五字以上、三十五字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

ということ。

(下書き用)

35 25
ということ。

〔三〕 つぎの文章は、藤原氏と姻戚関係がなかった後三条天皇に関する逸話である。これを読んで、後の問いに答えよ。

後三条院は、春宮¹にて二十五年までおはしまして、心静かに御学問ありて、和漢の才智をきはめさせ給ふのみにあらず、天下のまつりごとをよくよく聞きおかせ給ひて、御即位の後、さまざまの善政をおこなはれけるなかに、諸国の重任^{ちようにん}の功といふ事、長く停止^aせられける時、興福寺の南円堂^bを造れりけるに、国の重任を、関白大二条殿、まげて申^cさせ給ひけるに、ことかたくしてたびたびになり^③にければ、主上²、逆鱗^②におよびておほせられていはく、「関白・摂政のおもく恐ろしき事は、帝の外祖などなるこそあれ、我はなにと思はんぞ」とて、御髭^{ひげ}を怒^dらかして、ことの外に御むつかりありければ、殿、座を立ち^④て出でさせ給ふとて、大声をはなちてのたまはく、「藤氏の上達部みなまかりたて。春日大明神の御威^みは、けふ失^fせはてぬるぞ」と言ひかけて出で給ひければ、氏の公卿、まことにも一人も残らずみな座を立ちて、殿の御ともに出でければ、ことがら、おびたたくぞあり^gける。主上これをきこしめして、関白殿ならびに藤氏の諸卿^{しよけい}をめしかへして、南円堂の成功^{けいこう}を許されにけり。殿の御威も、君の御心ばへもあらはれて、ときにとりていみじきことにてなんありける。⁵

（『続古事談』より）

【注】 * 重任の功 寺社の造営などの功績によって、国司の任期が満了しても、同じ地位につき続けること。

* 南円堂 興福寺にある八角堂。

* 関白大二条殿 藤原教通。

* 藤氏の上達部 藤原氏の公卿。

* 春日大明神 春日大社の祭神で興福寺の守護神。藤原氏の氏神。

* 成功 寺社の造営などの功績によって、官位が与えられること。

問一 傍線部1「春宮」と同じ意味の語をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 斎宮 イ 内宮 ウ 中宮 エ 後宮 オ 東宮

問二 二重傍線部①「に」②「せ」③「に」④「て」のうち、助動詞はその意味を、それ以外は「助動詞以外」をつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。ただし、同じ記号を何度選んでもかまわない。

ア 尊敬 イ 受身 ウ 過去 エ 完了 オ 推量
カ 断定 キ 可能 ク 意志 ケ 婉曲 コ 助動詞以外

問三 波線部 a ～ h の中から、後三条天皇が主語となる述語を三つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

問四 傍線部2「主上、逆鱗におよびて」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 後三条天皇は南円堂を造ろうとしたが、関白がそれを何度も阻止したから。

イ 重任の功を停止している後三条天皇の方針に対して、関白が繰り返し異を唱えたから。

ウ 関白が、国司による南円堂建設を禁じるよう、後三条天皇にしつこく進言したから。

エ 関白が、今の国司では南円堂を建設することは難しいと、後三条天皇に再三意見したから。

オ 重任の功を停止するべきだという関白の強い主張は、後三条天皇の善政にそぐわなかったから。

問五 傍線部3「関白・摂政のおもく恐ろしき事は、帝の外祖などなるこそあれ、我はなにと思はんぞ」の解釈として、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 関白・摂政の存在に威厳があるのは、天皇の母の父の場合であるけれど、私はまったく気にしない。

イ 関白・摂政の存在が権威的であるためには、天皇の母の父がなるべきだけれど、私はそうは思わない。

ウ 関白・摂政の存在が恐ろしいのは、天皇の母の父が務めるからだが、私の親というわけではない。

エ 関白・摂政の地位に重みを持たせるため、天皇の母の父とする場合もあるけれど、私の治世ではそうはしない。

オ 関白・摂政の地位は不吉なので、天皇の母の父が位についたら大変だが、私には関係ないことだ。

問六 傍線部4「南田堂の成功を許されにけり」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 春日大明神の怒りによって、思いもしない事件が起こったから。

イ 藤原氏のほとんどの貴族が、興福寺から去ってしまったから。

ウ 藤原氏の多くの貴族が、関白の意向に従ってしまったから。

エ 藤原氏の多くの貴族が、天皇を打倒しようとする動きを見せたから。

オ 藤原氏の貴族が、春日大明神に呪いをかけようとしていたから。

問七 傍線部5「いみじきことにてなんありける」とあるが、筆者はこの一件をどのように受け止めているか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 天皇の無神経さも関白の傲慢さも、厳しく批判している。

イ 天皇の気弱さも関白の遠慮のなさも、前例がないと嘆いている。

ウ 天皇の気丈さも関白の統率力も、手放しで絶賛している。

エ 天皇の決断も関白の判断も、適切であつたか疑問視している。

オ 天皇の配慮も関白の権威も、ひとまず称えている。

問八 本文の内容に合致するものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 後三条天皇の善政の象徴が南円堂であり、関白もその建設には賛同していた。

イ 後三条天皇が重任の功を停止したのは、藤原氏を厚遇するためであつた。

ウ 後三条天皇は関白と藤原氏の貴族の関係を破綻させようとした。

エ 後三条天皇は関白の意見を抑え込み、自らに従わせようと思っていた。

オ 後三条天皇は春日大明神の存在を恐れていたからこそ、考えを改めた。